



認知症フレンドシップクラブ アニュアルレポート 2015/2016

認知症フレンドシップクラブ アニュアルレポート 2015/2016

contents

04,05 認知症をめぐる社会の動き

06,07 STORY 1

認知症の人の困りごとを入り口に、人と人をつなげる
認知症まちづくりファシリテーター講座

08,09 STORY 2

チームで動く、まちづくりの現場から
多様なセクターによるチームチャレンジー東京都町田市ー

10,11 STORY 3

まちづくりのはじめ方
町田市編・富士宮市編

12,13 まちづくりを加速する全国プロジェクト
be Orange（認知症まちづくり基金）

14,15 全国事務局活動紹介

16,17 2015/2016 活動カレンダー
決算報告、メディア掲載

18,19 参加方法、謝辞



表紙写真……実際のカフェで開催された東京都町田市の認知症カフェ。運営には専門職、認知症の人、学生、企業も加わりました。詳細は9ページ参照。

認知症フレンドシップクラブは
「認知症になっても安心して暮らせるまち」を作ろうと
アクションを起こす人の全国ネットワークです。

認知症になっても
変わらない暮らしが
できるまち

つながる
希望
チャレンジ

代表あいさつ
認知症フレンドリーなまちづくりを目指し、地域に暮らす人々がそれぞれに抱える障害や課題を越えてつながり合う。その出会いの手がかりとして、みんなで一緒にタスキをつなぎ走るという経験を共有し、地域の一人ひとりが未来に向けた新たな歩みを踏み出していく。2011年より認知症フレンドシップクラブが主催するRUN伴とは、そうした変化を社会に生み出したいと模索する活動です。2016年のRUN伴では、初めての日本縦断を目指しつつ、日本各地で同じ思いに立つ多くの方々をつなぎながら、11月の沖縄ゴールに向けてタスキをつないでいます。
RUN伴は、ここ数年でその規模を徐々に拡大させています。それは、日本各地で同じ思いに立つ多くの方々からのご支援があつてのことです。当クラブでは、そうした多くの感謝と恵みを、どのように社会に還元できるのかを話し合ってきました。その結果として立ち上げたのが、「be Orange（認知症まちづくり基金）」です。これは、認知症を生きる人たちが安心して暮らせる、やさしいまちづくりに向けた企画を広く募集し、優れた企画を支援していくというものです。それぞれの地域におけるまちづくりに、今後も微力ながら寄り添って行きたいと思っています。
当クラブは、各地域におけるローカル拠点での活動とともに、国全体でのトータルなつながりを生みだしつつ、地域社会の豊かな変遷を引き起こしていきたいと考えています。ご支援いただいている皆様には、この1年の活動をご覧いただき、厳しい視点からご評価をいただきたいと願っています。常に襟を正しつつ、真摯に皆様からの言葉に耳を傾けていくことが、今後のさらなる活動に向けた新たな問いを生み出す糧となると考えています。

認知症フレンドシップクラブ
理事長 井出 訓

芸陽バス本社で幹部職員を対象に認知症サポーター養成講座開催（2016 年 10 月）



宮前図書館の一角では、「認知症とよりよく生きる」コーナーが設置された（神奈川県川崎市より）



北都銀行山王支店で年金支給日に行われた認知症カフェ（『全国 認知症カフェガイド on the WEB』より）

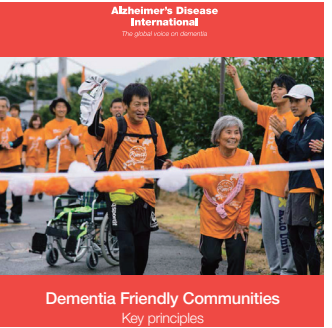
ケアマネ常駐コンビニが 2015 年 4 月埼玉でオープン。次世代型コンビニとして話題に（株式会社ローソン）

民間セクターや図書館などで 試みが本格化

介護・医療「以外の分野」の企業や団体が、本業を活かす形で、認知症に関わる新たな事業をスタートさせる動きも出てきました。これまでであった認知症サポーター養成講座の受講に加え、それぞれの事業で、認知症に対してどのようなことができるのかを模索する企業や団体が増えています。



国際アルツハイマー病協会事務局長が来日。2017 年京都での ADI 国際会議にむけ意見交換を重ねている。



国際アルツハイマー病協会の機関紙の表紙に日本の活動として RUN 伴が紹介された。



2015 年 9 月神戸で開催された WHO グローバルフォーラム。国際的な重要課題として認知症がテーマになった。



イギリスと日本の当事者団体、認知症ワーキンググループが交流。（丹野智文さん facebook より）

国際機関でも 認知症が重要 トピックに

認知症の人が 2050 年までに世界で一億人を突破するという統計も出ている中、高齢化率トップの日本の動きは世界から期待と注目の的です。2015 年 9 月、神戸で開催された WHO 国際会議の場で、初めて本格的に認知症がフォーカスされるなど、各国連携して行なう情報交換が活発になってきました。

認知症をめぐる社会の動き

2025 年には認知症の人が 700 万人になると言われています。もはや認知症は、特別な人でも、専門家だけで解決できる課題でもありません。これまでになかった社会状況に向け、各地で新しい動きが始まっています。

各地に広がる 認知症の人自身 による活動・発信

2014 年に立ち上がった日本初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」の活動が全国的な広がりをみせています。当初、一部の認知症の人が担っていた講演会は、各地域で発言する当事者が増えてきました。そんな本人の声からスタートする活動として「認知症の人と一緒にいうまちづくり」をテーマにする地域も現れはじめました。



左：一般雑誌の特集タイトルは「認知症でも働ける」。認知症＝暗い、怖いイメージからの脱却が伺える。右：NHK にて、認知症キャンペーン展開。多数の当事者がテレビ出演。



本人会議（町田市）…「認知症の本人による本人のための会議」と題した当事者が主体となった活動。この場では、ケアの対象者ではなく、当事者同士でしか語れない本音を語り、認知症の先輩からのアドバイスを受けられるなど、仲間づくりの場となっている。



当事者講演会（認知症地域ネットワークフォーラム・三重）……認知症の人が自らの言葉で語りかける内容は、誤解や偏見を払拭する説得力がある。講演を聞きに行ったことで、自身の認知症を周囲へカミングアウトする勇気を得る人も出てきた。



チャレンジを始めた
町田チームのみなさん

ファシリテーター講座を受けた町田市の三人に感想を聞きました。

森さん：私はめっちゃくちゃ活きてます。仕事の仕方、人と話す時の話し方もホントに変わりました。その人が何を考えているのかなと思うようになって。背景とか、めざすべき所をどこに持っているのか興味をもつようになったり、全然変わりましたね。

本間さん：私も、相手のことがすごく知りたくなって、沢山質問するようになって。職場でシツコイって言われます（笑）。

米山さん：実際にファシリテーションする時に、いかに講座のような意見を出しやすい空気を作るかとか、会話がうまれる雰囲気作りが参考になりましたね。手法も体系的で、こういう時には、こんな方法があるとか分かりやすく説明してもらいました。何より、まちづくりを実践している人が集まっていた、すごくリアルな情報交換ができました。

……この講座で出会った三人は、半年後、地域を巻き込むイベントを行います。詳しくは、次ページをご覧ください。



認知症の人の困りごとを入りに
人と人をつなげる

STORY 1

認知症まちづくりファシリテーター講座

レジでの支払いに時間がかかり、買い物に行けなくなった、散歩に出るのが好きだけど時々道に迷ってしまうことがあり、家族から止められた。認知症に関係する課題の多くは、医療や介護だけではなく、商店や近所のつながりといったまちのあり方にも関係しています。「認知症の人にやさしいまちづくり」といったキーワードを聞く機会も増えてきています。

しかし、一方で、まちづくりという大きなテーマに対して、自分たちだけでどんなことができるのか、どんなことから始められればよいのか……、悩む地域も少なくありません。

認知症フレンドシップクラブでは、これまで全国のまちづくりの設計と実践に関わってきた経験をもとに、2016年2月、全国で初めて「認知症まちづくりファシリテーター講座」を開催しました。参加者は、応募で集まってきた全国16地域、42名。1つの地域から、自治体職員と介護職、NPOメンバーといった属性の異なる3名ずつ、チームでの参加が原則です。

この講座の狙いは、自分たちでひとつの事業をがんばるという発想ではなく、まちを構成している様々なセクターの人たちとの対話を通じて、共有できる問いを発見し、それぞれが目標に向かって動いていけるように流れを作っていくことにあります。2日間で、参加者は、8つの対話の手法を学び、その後、対話の場をつくる実践を繰り返しました。

受講後、各地では、これまでそれぞれの立場で設定していた問いを見直し、まちの様々な人が、動き出したくなる問いを考えることを通じ、これまでつながらなかった人たちを巻き込んだ場づくりがスタートしています。



～・～ 認知症フレンドリーにむけたまちづくりを～・～
「広げる」ポイント

場をつくる

近所でも出会う機会のない人
達が顔見知りになる場を作る

問いの共有

「何のために行う活動なのか」
目的意識や方向性を共有する

ハブになる

さまざまな立場の人や地域の資
源をつなぐハブ機能が不可欠

プロジェクトで共有した「問い」
森 スタバでDカフェをすると決まると、欲張りになって一時期、ずいぶん内容が広がってしまいました。
米山 でも、「今回は居場所づくりが大事だよ」と企業の人が出てきて、立ち返ったんですね。
森 具体的な準備も進むなかでの修正は勇気がいるんですけど、ここでファシリテーター講座で学んだ「問いの共有」が活きましたね。何のためにやる活動なのかメンバーで考え直すと、改めてみんなの意見を再確認できて、思い切って変える勇気で、チームワークが強まりました。
地域の人をつなぐハブになる
森 活動が広がって、いろんな人が集まってくると、どんなふうに進めればいいのか、考えた時期もあります。その時、自分ができる範囲を自覚して、「人に頼らなければやっていけない、人を巻き込まないとミッションは達成できない」って分かっただんです。まちづくりには、人と人をつなぐ「ハブ」の役割が大事って

言いますけど、実際のパソコンになく線のように、ハブって『有線』なのかなと思って。こちらが持っている線を相手の状態に合わせて差し込むには、その人を理解していないと出来ない。相手を知ることが、すごく意識するようになりました。
認知症フレンドリーのために
本間 スタバDカフェの後、当事者の方が「この前のすごく楽しかった、誘ってくれてありがとう！」って御礼を言いに来てくれたんです。今までにない行動でビックリしました。
米山 Dカフェが自信を取り戻してもらうきっかけになって、ご本人や家族同士で、「今度、旅行行く？」とか「働きたいね」って、次のステップにつながれば嬉しいですね。
本間 やっぱ、認知症カフェが増えるんじゃないかって、既に地域にあるお店や場所が、認知症の人が気軽にかけられる「認知症カフェのような空間」になっていくことが大事だと思います。そのために自分達ができることを続けていきたいですね。



米山 雅人さん
町田市いきいき生活部 高齢者福祉課 地域支援係

森 光輝さん
社会福祉法人 七五三会 営業企画課 課長

本間 祐子さん
社会福祉法人 芙蓉会 地域連携福祉推進課

チームで動く、まちづくりの現場から

多様なセクターによるチームチャレンジー東京都町田市ー

STORY 2

ファシリテーター講座で初めて会った森さんと本間さんと米山さん。講座後、市役所の米山さんから町田市Dカフェのコンセプトを聞いた森さんと本間さんは、プロジェクトに関わっていきます。三人がどのようにまちづくりを行なっているのか、話を聞きました。

まちづくりのチームがうまれて
米山 行政として、年間を通してこんなことやりたいというコンセプトを伝えたら、森さんと本間さんが本質の部分を理解してくださって、話しが進んでいきました。
森 米山さんは、町田市の現状や、今後の方向性を本音ベースで伝えてくれたんです。自分が働く法人では、行政と連携して地域貢献できる活動をしたいと思っていたところで、会社のバックアップもあって、ぜひ一緒にやりたいなと思いました。
本間 私も、職場で地域とのつながりを重視していて、職場の理解があって、自分のできることをやらせてもらっています。
米山 これまで町田で行なわれている本人会議（4ページ参）やDカフェの活動（10ページ参）は、認知症の方と強い信頼関係があるパートナーの方が中心で、発信したい当事者がいることが町田市の強みでした。いわば認知症の人のマネージャーのような存在に加えて、企画と運営をする総合プロデューサーのような役割をお二人が担ってくれたことで、人と人がつながってきて、まちが動き出したと感じています。
森 本間さんは人を惹き付けるタイプで、すごい人脈を持つてます。そうやって集まって来た人を、自分がグサグサとつなが係（笑）。僕は企画を組み立てたり、動きを設計するのが好きで、どんどん進めなくなるんですが、本間さんが認知症の人との関わりが深くて当事者目線を忘れないでいてくれるので、大事なことに立ち返ることができています。そういう点で、チームとしてバランスよく動いているのかもしれない。



通常の営業時間帯の一部エリアを利用して開催。通常のお客さんとして、コーヒーをゆったり味わう時間を楽しめた。店内で行った演奏会は周囲の客からも拍手が上がった。
2016年7月26日実施。

まちづくりのはじめ方

STORY 3

まちづくりの具体的な展開は様々ですが、一つのきっかけから仲間が生まれ、その軸を中心に成長する展開も見られます。そんな、まちづくりの始まりとつながりの実例を紹介します。

富士宮（D シリーズ）編 ～遠隔地との連携で、まちの出来ること・したいことが実現～

認知症の人のやりたいことを実現する機会を、県外の人と一緒に作り上げる企画によって、参加者を迎え入れるために地元メンバーが結集。まちづくりチームに発展しています。

Step 1 認知症になっても熱くなれる試合がしたい！

富士宮メンバーが奈良訪問。当事者同士の意見交換を実施。「認知症になっても熱くなれる試合をしたい」という意見から、富士宮市ソフトボール球場での試合と富士山観光と合わせたツアーの計画で話が盛り上がる。



Step 2 認知症の人を地域みんなで「おもてなし」しよう！

奈良のメンバーが富士宮へ試合に行く気満々だと聞き、富士宮メンバーが「一念発起」。以前から思い描いていた、「認知症の人が楽しく旅ができるまち」実現のために、ソフトボール大会と事前の交流会（前夜祭）を、おもてなしするスタイルで計画。



Step 3 交流会とソフトボール大会の開催が決定

前日の富士宮観光、野球に専念するDシリーズ（日本認知症ソフトボール大会）の二日間のプログラムにより、富士宮を満喫してもらうツアーを設計。自治体、介護専門職、キャラバンメイトの他、野球チーム、旅館組合、FM局、婦人会、商店街、旅行者など、富士宮住民が運営に参加。



Step 4 「富士山麓でアツくなる！」

Dシリーズ当日は、本物の球場、本物のアナウンス、多くの声援によりスイッチが入り、参加選手のファインプレーが続出。前夜祭で交流を深め、球場で思い切り体を動かすことで、認知症の人にも自信を取り戻すなど、認知症をカミングアウトして積極的になりたいと語る当事者が現れる。



Step 5 Dシリーズ参加が、認知症の人にとっての目標に

「富士山を見に行こう」と誘いやすい土地柄もあり、Dシリーズの参加を目標にする地域が続出。デイサービスや認知症カフェなどの仲間ですoftボールのチームを結成し、大会に向けて定期的にキャッチボールを始めるなど、地域の仲間作りにも広がっている。



Step 6 甲子園のように、全国から認知症フレンドリーなまちが集まる大会をめざして

Dシリーズへの参加は、試合だけでなく交流の場として、認知症の人が毎年参加することを目標したり、全国のまちづくりを行うメンバーの交流の場にもなっている。



町田市（D カフェ）編 ～当事者中心の活動で、まちのリソースがつながる～

認知症の人が活動の中心になることで、活動の方向性が明確になり、地域に分散していた様々な取り組みや情報がつながり出しました。

Step 1 このまちに、「いま必要な場」をみんなで作りたい

認知症に対する不安を抱える人や社会とつながりたい人、認知症の診断後にサービスを受けていない「空白の期間」の人へのフォローとなる取組を町田市が模索、当クラブが認知症カフェ事業として受託。



Step 2 多様な人と「どのような場づくりが必要か」を考える

認知症カフェワークショップを開催し、福祉・介護専門職、家族会、地元企業などが参加。課題やアイデアが出る中、認知症と診断後の思いを、家族以外の人に初めてカミングアウトする当事者が現れる。



Step 3 当事者の声からテーマが決定

ワークショップ参加者から準備メンバーが揃いはじめ、定例会議に認知症の人が参加。「町田市らしい認知症カフェ」の方向性が決まる。

- ・認知症になってもできる社会貢献
- ・認知症の人が仲間を作れる場所
- ・多世代と交流できる機会



町田認知症カフェ MAP

Step 4 地域のリソースとつながる

- ・当事者、市役所、当クラブの3者で認知症カフェ定例会を実施
- ・カフェを実施している地域の団体と「まちだカフェ連絡会」開設
- ・「町田カフェ MAP」を作成して、内外へプロジェクトを発信



第1回 歳末抽選会

Step 5 多様なパイロット事業の実施

地域で実践中の行事やイベントをお手伝いする形で、出張版の認知症カフェ「D カフェ」パイロット事業を開催。人手の足りない所を手伝い感謝され、新たな顔見知りの関係につながるなど、認知症の人にも社会で活躍の実感を得て、自信を取り戻せる機会となった。

- ・12月23日 商店街歳末福引抽選会のお手伝いと出張カフェ
- ・1月7日 認知症の人が体験談を語る
- ・2月28日 自治会クリーンアップ活動とコラボ
- ・3月12日 病院のカフェで医師講演と当事者演奏会



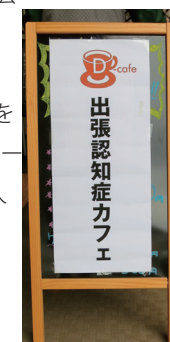
第2回 体験談を語る



第3回 自治会清掃活動

Step 6 次のステップに向けて

町田市ではDカフェのような、地域のつながりの場を広げる試みとして「D ネット」を計画。Dカフェ、Dカード、Dボックス、Dフレンズ、D活など、当事者の人が積極的に社会とつながるシステムをめざしている。



第4回 講演会と演奏会

be Orange (認知症まちづくり基金)

be Orange プロジェクト紹介

A 部門 認知症の人自身による活動や発信



・おれんじドアから日本認知症ワーキンググループみやぎ（おれんじドア）認知症の人自身による当事者同士の相談活動の発展と情報発信の強化。

B 部門 認知症の人の雇用・働く場づくり



・ゆいまーの心でやりたいことを実現する（だいじょうぶネット沖縄）当事者が希望する農作業所の確保と製作販売による地域のつながりを増やす。



・認知症の人の新たな挑戦創出プロジェクト（NPO 法人きぼうの輪）若年性認知症当事者の居場所としての作業所づくりと商品の製作、販売。

C 部門

認知症の人にやさしいまちづくりを推進するチームづくり



・まちへ出てみよう！認知症キッズサポーター（松栄グループ有限会社・NPO 法人 U bdoe）…クイズなどの楽しい形式で、子供達に認知症の人との接点を作り出す。



・D-School 認知症に優しい地域づくり担い手育成（NPO 法人 医療と介護のボランティアさくらい）…市内の住民・企業向けに、まちづくり担い手養成講座を開催、結果を冊子にまとめる。

D 部門

認知症の人にやさしいまちづくりに関する調査研究

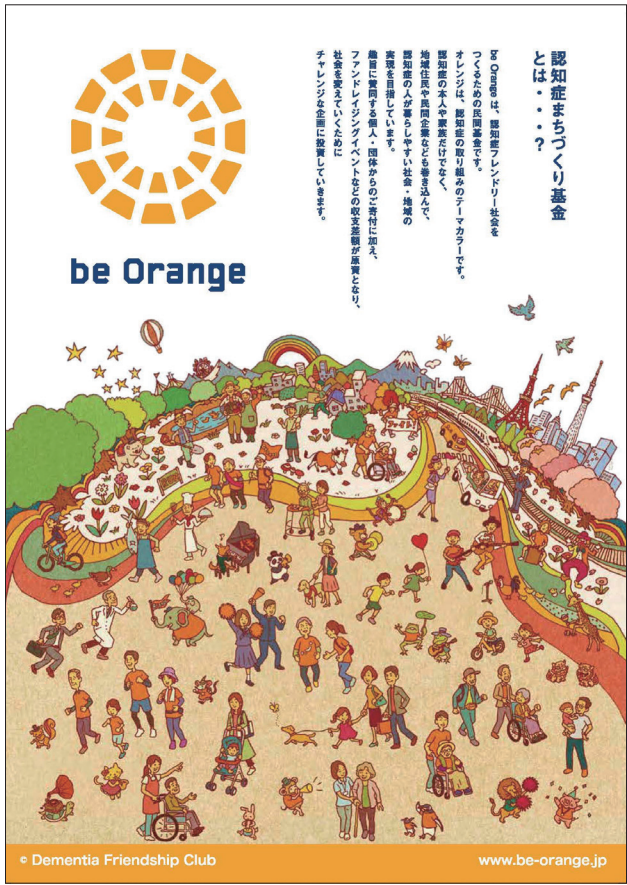


・見えない壁をなくそう！わがまち希望の地図（日本認知症ワーキンググループ）認知症の人が外出しやすいまちには何が必要かという視点にたった地図の作成。

2016年6月、認知症フレンドシップクラブでは、認知症の人と伴にまちづくりを促進するための民間の基金「認知症まちづくり基金（be Orange）」をスタートさせました。

認知症の人自身の活動を加速し、認知症の人とともにまちづくり・社会づくりをすることを目的として、広く社会から寄付を募り、社会を動かす団体や新しいチャレンジのプロジェクトへ助成します。

今後も、人やものが集まるプラットフォームになるべく、趣旨に賛同する個人や団体・企業などからのご寄付を募集しています。



↑プロジェクト公募チラシ

be Orange へのご支援のお願い

素晴らしいアイデアや思いがあるものの活動資金の不足から、動き出せない団体も少なくありません。活動の「はじめの一步」への後押しで、まちづくりをスタートできるよう、多くのみなさまからのご理解とご支援、心よりお待ちしております。

<http://www.be-orange.jp/>

まちづくりを加速する 全国プロジェクト

～ 認知症フレンドシップクラブ事務局メンバーの活動 ～



奈良・追分プロジェクト

認知症の人の問題解決だけでなく、地域の様々な困り事が活動の出発点になっています。地域の共通の資源であり課題でもある、追分地区にあった梅林の復活を目指して、地元住民と認知症の人が協力。それは、地域の仲間作りや働く場の創出、農作業や花見による交流人口の増加など、多様な課題の解決につながっています。



奈良・オレンジコンサート

認知症の人と一緒に、本物の音楽をコンサート会場で楽しむオレンジコンサート。プロ音楽家のソプラノ歌唱を鑑賞した後は、誰もが口ずさめる歌を参加者全員で合唱します。そして、若年性認知症当時者バンドが日頃の練習の成果を披露して盛り上げると、アンコールも起こり、みんなでひとつの音楽をうみだす力強い歌声が会場に響き渡りました。（第一回 2015 年 6 月）



RUN 伴

認知症の人も、そうでない人も、伴に力を合わせて日本を縦断するタスキリレー。これまで出会う場のなかった人たちが、同じ目標に向かい、互いの奮闘を応援しあう体験から、ご近所の顔なじみに発展。その達成感の共有から仲間意識がめばえ、まちづくりのチームとして動き出したり、タスキをつないだ遠隔地のメンバーとの交流も盛んになっています。



美・Myseif ～おしゃれと癒しを楽しむ日～

オシャレをすることで、心華やぐ「気持ちの贅沢」を認知症の人と共有しようと、美容やコスメの専門家たちが集う「美・Myseif」。ハンドマッサージやお化粧、アロマなど、プロの技で引き出される心地よさと癒やしから、別人のように元気になる人が続出。美容専門家達は、自らの技術が多くの人の力になることを実感する機会にもなっています。（2016 年 5 月大阪）



Dシリーズ富士登山
富士宮事務局



認知症サポーター養成講座 学童保育
町田事務局



認知症カフェ「だんだんどうも」
魚沼事務局



放送大学番組『認知症と生きる』出演
千葉事務局

全国事務局 活動紹介

～ 地域活動の拠点として、各地のニーズ に合わせた取り組みを行っています ～

奈良 奈良事務局

- ・ネットワークフォーラム神戸
- ・奈良オレンジコンサート開催
- ・DFC 和歌山釣り大会実施
- ・RUN 伴関西ブロック

大阪 豊中事務局

- ・「女性が自分らしくおしゃれと癒しを楽しむ日」フューチャーセッション実施
- ・「認知症の女性の方が主役」のイベント M's すてーじモア開催
- ・豊中若年性認知症の本人と家族の会のサポート

大阪 あべの事務局

- ・RUN 伴
- ・大阪市（北・中央・南エリア）認知症関係者連絡会（3回）DFCについて講演
- ・関西活動報告会実施

大阪 堺事務局

- ・RUN 伴関西ブロック
- ・ネットワークフォーラム神戸
- ・関西活動報告会実施

沖縄 沖縄事務局

- ・キックオフイベント開催
- ・RUN 伴準備のため各団体への説明や、イベント参加

東京 町田事務局

- ・認知症サポーター養成講座（年4回）、ステップアップ講座（2回）、サポーター養成講座学童保育（4回）町田市受託事業。
- ・出張認知症カフェ（年4回）、まちづくりワークショップ（4回）。つながるまちづくりプロジェクト参加。本人による認知症講座、開催サポート。

静岡 富士宮事務局

- ・Dシリーズ第3回開催、打合せとソフトボール練習（年10回）。Dシリーズ富士登山開催。
- ・複数の講演会、フォーラム、当事者バンド演奏会への出演。
- ・ACジャパンCM撮影、取材サポート。当事者ミーティング開催。

香川 西香川事務局

- ・キックオフイベント開催
- ・RUN 伴準備のため各団体への説明や、イベント参加

北海道 札幌南事務局

- ・キックオフイベント開催（講演と演奏会）
- ・RUN 伴実施

北海道 函館事務局

- ・「ロックを通じて福祉を知ろう ロックバンドおかんライブ」函館開催
- ・RUN 伴実施
- ・ネットワークフォーラム北海道

東京 品川事務局

- ・フレンドシップカフェ（年5回）、カフェ取組みの発表、各地で報告。
- ・品川区消費生活・社会貢献活動へ出展
- ・RUN 伴実施、介護専門学校や区役所、商店会へPR。

千葉 千葉事務局

- ・キックオフイベント各地へ講演
- ・認知症フレンドシップクラブ活動の講演
- ・放送大学番組『認知症と生きる』放送

新潟 魚沼事務局

- ・認知症カフェ実施。毎月開催：だんだん、どうも（南魚沼市）、年3回：みちくさCafé 風花（十日町市）
- ・RUN 伴実施
- ・ネットワークフォーラム北陸

北海道 札幌・石狩事務局

- ・家族のつどい（年4回）
- ・RUN 伴+石狩 開催
- ・ネットワークフォーラム
- ・認知症予防体操教室（年4回）

北海道 恵庭事務局

- ・講演会『認知症になっても安心して暮らせる街を目指して』開催
- ・RUN 伴実施、市役所、議会、FM局など複数箇所へPR。
- ・地域行事「すずらん踊り」RUN 伴Tシャツで市内を練り歩く

北海道 帯広事務局

- ・ステップアップ研修、帯広市キャラバンメイト研修、講演会2回
- ・RUN 伴市役所等へ挨拶、フードバレーマラソン参加、ネットワークフォーラム十勝開催
- ・寄付付き自販機設置

東京 東京事務局

- ・認知症フレンドリージャパンサミット、WHO グローバルフォーラム登壇
- ・『旅のこぼれ』製作協力、RUN 伴映像公開イベント運営
- ・まちづくりワークショップ開催

※事務局数は 2016 年 3 月開設現在のものです

2015年度 会計報告

収入		支出	
会費	712,000	事業費	23,145,347
事業収入	175,180	管理費	5,330,033
助成金収入	6360,000	前年度助成金残金返還（※）	2,511,000
寄付収入	25,042,877	予備費	0
雑収入	2,401	繰越金	1,306,078
合計	32,292,458	合計	32,292,458

※「前年度助成金残金返還」＝日本財団
助成事業の未使用分返還金

メディア掲載

《新聞》

朝日新聞（2015年6月23日石川版朝刊）

北海道新聞（2015年7月6日朝刊）

西日本新聞（2015年7月25日朝刊）

シルバー産業新聞（2015年7月10日）

ほか、16社以上

《テレビ》

NHK ハートネットTV（2015年2月4日）

テレビ埼玉、FM e-niwa、他ローカルメディア多数

《雑誌、書籍》

AERA（2015年11月2日号）

おはよう21（2016年1月号）

レクリエ（2015年11-12月号）

《web》

認知症ねっと（2015年7月16日）

アイメディ（2015年8月31日）

《受賞暦》

- ・認知症フレンドリーアワード2015入賞（NPO法人オレンジアクト）
- ・認知症の私と輝く大賞 奈良事務局・町田事務局（老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業分）
- ・認知症ケア学会2016奨励賞（日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞）
- ・グッドデザイン賞 RUN 伴（公益財団法人日本デザイン振興会）



西日本新聞



おはよう21



FMe-niwa 出演



認知症ねっと



認知症ケア学会奨励賞



グッドデザイン賞
(RUN 伴)

活動カレンダー 2015/2016

2015年

4月

「認知症と生きる」放送スタート／放送大学

5月

M's すてーじモア「認知症の女性が主役」開催
関西活動報告会（あべの、堺事務局）

6月

オレンジコンサート（奈良事務局）
認知症フレンドシップクラブ総会

7月

RUN 伴 2015／北見スタート ※1

9月

認知症フレンドリージャパン・サミット2015（共催）

10月

RUN 伴 2015／大牟田ゴール

11月

全国事務局ギャザリング開催 ※2

12月

Dカフェ（町田認知症カフェ）パイロット事業開始

2016年

1月

認知症地域ネットワークフォーラム（全9ヶ所）※3

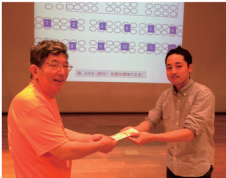
2月

認知症まちづくりファシリテーター講座

RUN 伴プロモーション映像公開イベント開催（東京）

3月

Dシリーズ第3回開催（共催）



日本認知症ワーキンググループへ、RUN 伴2014の収支差額から50万円を寄付させていただきました。（2015年9月）



※1 RUN 伴 2015 走行距離：3000 km、

START：北海道／北見 → GOAL：福岡／大牟田

参加者数：7775名（認知症当事者約655名）

通過県：29都道府県、開催のべ日数：41日間



※2 事務局の開設 札幌南事務局／5月、沖縄事務局／1月

西香川事務局／2月、全国事務局ギャザリング／奈良11月



※3 認知症地域ネットワークフォーラム

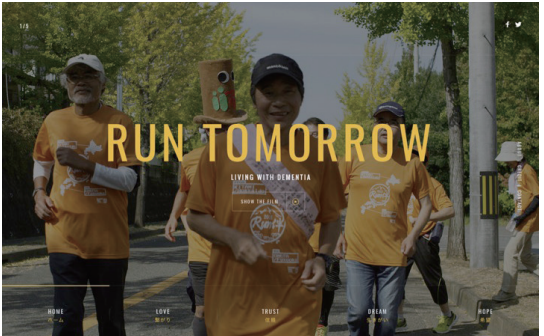
北海道（帯広市・2/13）、東北（仙台市・3/25）

関東（町田市・1/30）、北陸（十日町市・2/26）

中部（田沢湖・8/9）、関西（姫路市・7/10）

中国（徳山市・7/19）、九州（福岡市・3/20）

沖縄（那覇市・1/17）、合計参加者数：703名



RUN 伴プロモーション映像完成（2月公開イベント）

<http://runtomorrow.jp>

2015 年度、活動に参加して下さった皆様、
ご支援下さった全ての皆様に御礼申し上げます。
また RUN 伴などに格別のご支援頂きました
団体・企業の皆様も重ねて御礼申し上げます。

※紙幅の関係で、2016 年度お世話になった皆様については、
アニュアルレポート 2016/2017 に掲載する予定です。

助成

shigeo & Megumi Takayama Foundation、公益財団法人日本財団

RUN 伴 2015 パートナー企業

株式会社浅井ゲルマニウム研究所、アサヒグループホールディングス株式会社、日本イーライリリー株式会社、
社会医療法人北斗 介護老人保健施設かみしほろ、花王株式会社、有限会社祥寿会、辰川会グループ、たっくんの
バームクーヘン屋さん、なかはら歯科医院、特定非営利活動法人播磨認知症サポート、株式会社富士通研究所、
株式会社フレアス、一般社団法人北海道薬剤師会、株式会社メガスポーツ、リハコンテンツ株式会社

RUN 伴 2015 後援

滋賀県、富山県、奈良県、新潟県、三重県、生駒市、大津市、金沢市、草津市、富山市、豊橋市、長浜市、彦根市、
米原市、南魚沼市、野洲市、和歌山市、津市、大和高田市、大和郡山市、橿原市、香芝市、葛城市、御所市、天理市、
宇陀市、奈良市、桜井市、公益財団法人認知症の人と家族の会滋賀県支部

RUN 伴プロモーション映像製作

日本イーライリリー株式会社、EXIT Film、国際大学 GLOCOM、株式会社富士通研究所、LETTERS、[.que]

寄付

サントリービバレッジサービス株式会社（寄付付き自販機）、イオン株式会社（イエローシートキャンペーン）

認知症プロジェクト

国際大学 GLOCOM、株式会社富士通研究所、認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ

協力

フューチャーセッションズ、NPO 法人 Ubdobe、富士通デザイン株式会社

事業受託

帯広市、町田市

認知症フレンドシップクラブ アドバイザリーボード

阿保順子（北海道医療大学特任教授）
岡田 誠 （株式会社富士通研究所 R&D 戦略本部 シニアマネージャー）
佐藤雅彦（認知症当事者、日本認知症ワーキンググループ共同代表）
田辺毅彦（北星学園大学文学部教授）
西村敏子（北海道認知症の人を支える家族の会事務局長）
八森 淳 （つながるクリニック院長）
前田隆行（町田市つながりの開理事長）
松本一生（松本診療所ものわすれクリニック理事長・院長）
宮崎直人（有限会社グッドライフ代表、全国グループホーム団体連絡会代表、北海道認知症グループホーム協会会長）
〈敬称略、五十音順〉

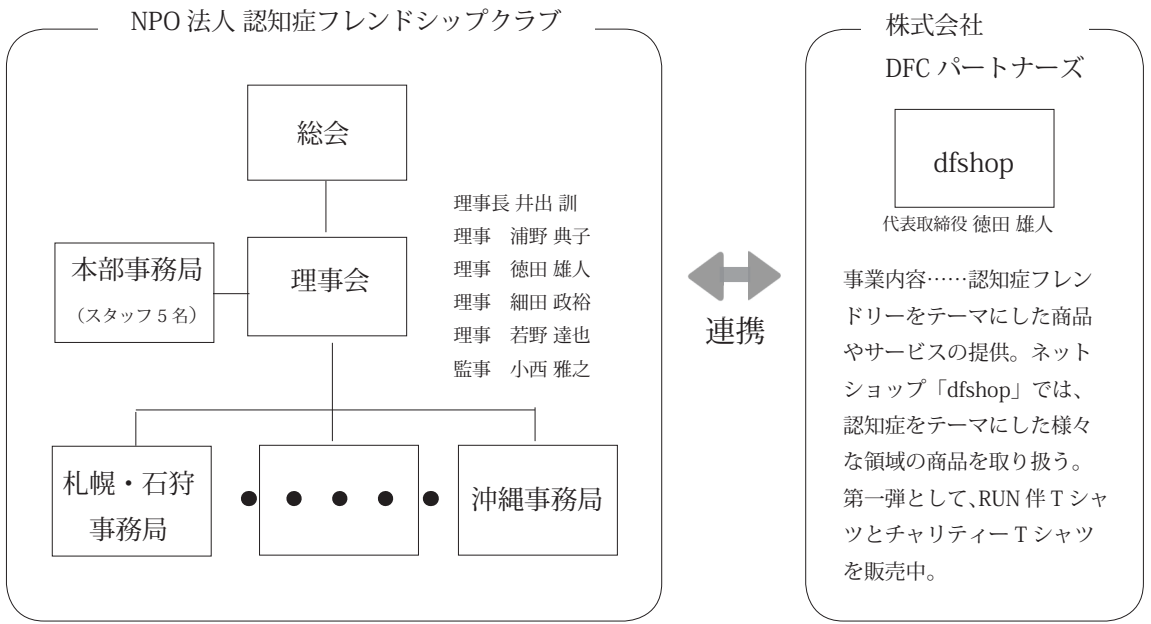
発行：NPO 法人 認知症フレンドシップクラブ

Publisher：井出 訓

Editor in Chef：三浦亜希子

Editors：徳田雄人、浦野典子、竹内 潔、金子智紀

認知症フレンドシップクラブでは、運営体制強化のため、2016 年 5 月より、新たに株式会社 DFC パートナーズを
設立しました。従来からの NPO 法人として取り組んできた非営利の活動に加え、株式会社は、物販などの収益事業を
担います。今後も、グループ全体で、日本各地で、認知症フレンドリーな地域づくりを推進していく事業を発展させ
ていきたいと思います。引き続きよろしくお願い申し上げます。



活動に参加する

全国のイベントに参加する

- ・RUN 伴
- ・地域ネットワークフォーラム
- ・まちづくりファシリテーター講座
など。

事務局活動に参加する

講演会、認知症サポーター養成講座、
認知症カフェ、サポ友、スポット、
独自イベントなど。
※事務局の活動は地域により異なります。
詳細は 14.15 ページを参照ください

会員になる

メンバーとの情報交換
メルマガ・ニュースレター
アニュアルレポート送付など
※当クラブ HP「会員になる」からお
申込ください

ご支援をお願いします

活動全般

当法人はみなさまからの会費とご寄付・助成金により運
営されております。
安心して暮らせるまちづくりのため、みなさまのご支援
お待ちしております。頂いたご寄付は当クラブの事務局
運営費として使わせていただきます。

RUN 伴への寄付

RUN 伴は、個人・企業・団体のみなさまのご協力・ご支
援により運営されています。みなさまの応援お待ちしております。
http://runtomojimdo.com/（RUN 伴寄付ページ）

【 寄付・会費のお振込先 】

ゆうちょ銀行
九〇八支店 普通口座
口座番号：4317094
加入者名：認知症フレンドシップクラブ

【 寄付のお振込先 】

ゆうちょ銀行
九〇八支店 普通口座
口座番号：4689283
加入者名：ラントモ実行委員会

